

第1分科会 氷見における安定した雇用を創出するグループ①

まとめ

取組

- ・ビジョンにむかって進むよりも、現状の問題解決を重ねていく
- ・既にある氷見の魅力のPRを地元にしっかり伝える。
市外に出て行く若者にも伝える
- ・他の成功事例にならう。勉強する→色々な人と交流する
- ・地元の人が危機意識を！そこからアイデアや努力が生まれる
- ・問題を問題としてとらえ、一つ一つ取り組んでいくしかない

現状

- ・人口減→需要減、働き手減

個別意見

取組

- ・企業誘致ではなく、創業支援、ソーシャルビジネス支援
- ・これまで培ってきた技術などを活かす
- ・それぞれのワークスタイルに応じた施策を
- ・ネットワークを組んだ支援によりNPOなどへも周知を
- ・外貨を獲得する基盤産業の強化を
- ・観光、介護、福祉、まだまだ可能性あるはず
- ・既存中小企業の支援
- ・新婚家庭の住宅取得支援
- ・創業のために、創業セミナーなど。特に女性の創業が増えているので
- ・創業できる可能性がどこにあるか
- ・地産地消による地域内経済循環が重要
- ・中小企業対策
- ・働き手の意欲が湧くような施策を
- ・氷見市の活性化、人口減少時代にも生産力をおとさず！

現状

- ・TPPの流れや中山間地の人口減少に危機感を感じる
- ・いかに地域でまともな収入を得ることが重要
- ・家電や住宅、エネルギー分野など、市外に流出するお金をもっと市内にとどめるべき
- ・企業の特徴が活かされていないのではないか
- ・経営者＝雇用を生んでエライという意識を
- ・個々の問題に応じた具体的なアプローチが必要
- ・今もっている技術をもっと活かす方向に
- ・時代のニーズに応じた変化を。そうしないと生き残れない
- ・自分達の魅力に気づいていない
- ・実は他社にはない魅力があるかもしれない
- ・社会ニーズの変化に気づいてはいるが、資金不足、後継者不足など
- ・創業するにもセンスなど必要なものがある
- ・誰かがガリバーがいて、それをもとに連合を組むのもありではないか
- ・地域を愛する人を育てる
- ・働き方＝生き甲斐
- ・氷見に戻ってきたいけれど、仕事がないから戻ってこれない人もいる
- ・分野を超えたタイアップ、情報共有を

理想

- ・NPOでもボランティアでも、雇用が生まれる場の創出
- ・そのために人が住みやすい環境を
- ・企業が氷見に残ってもらうための労働者確保など
- ・経営に必要なものを、個別にではなく、地域全体で応援できる風土を
- ・雇用を守るために、がんばるしかない！
- ・地域のネットワーク、むすびつきが重要
- ・都会の学校へ出て行った若者がもどってこれる環境。そのために仕事があることが必要

第1分科会 氷見における安定した雇用を創出するグループ②

まとめ

取組

- ・氷見ブランド
- ・創業支援(海の幸、山の幸)
- ・交通網の整備
- ・駅周辺の活性化
- ・交通の便をよくしてお客を呼び込む

理想

- ・食でまちの核をつくる
- ・クーラーのきいたきれいな牛舎で若い男女がバイオ研究などで働いている
- ・氷見駅を比美乃江大橋まで延ばして、漁港を核にした街づくり
- ・金沢の近江街市場を抜く、鮮魚市場で職場・就職
- ・おもてなしの行き届いた観光・景観に関連

個別意見

取組

- ・アウトレットパークを誘致する
- ・安定した収入の業種(建設業・土木業)を増やす
- ・駅周辺を活性化
- ・企業を誘致する
- ・交通の便を良くして客を呼び込み若い人の雇用を増やす
- ・工業用水が不要な業種を誘致する
- ・高齢者・障害者向け産業の創出
- ・世界に誇れる食を活かしたビジネス
- ・製造業を誘致する
- ・創業を支援する
- ・大学生の求人を増やす
- ・氷見の資源を活用する(農業用水を工業用水として活用)
- ・氷見の魅力を情報発信する
- ・氷見ブランドの会社(水産加工や六次産業化)
- ・氷見駅を番屋街まで延ばす
- ・氷見市の良さ(景観・環境)を活かす

現状

- ・300人以上の企業が数社しかない
- ・ターゲットを特化していない
- ・安定した収入、就業条件でないと就職しない
- ・耕作放棄地の田畑が多い
- ・高齢者・障害者支援施設が少ない
- ・市の中心部がどこか分からない
- ・職場環境や施設が汚いところがある
- ・食(米・野菜・氷見牛・魚など)はおいしい
- ・水資源問題(五位ダムは農業用水)
- ・造成できる工業団地が無い
- ・他市ではコンパクトシティや立地適正化政策が実施されている
- ・番屋街を近江町市場のようにしてほしい
- ・氷見の街は広がっていて公共施設も散在していて流れも悪い
- ・利便性が悪い、地の利が悪い

理想

- ・おもてなしの行き届いた観光・景観関連した産業が創出
- ・クーラーのきいたきれいな牛舎で若い男女がバイオ研究
- ・バスの利便性が高く働きやすい市にする
- ・金沢の近江町市場を抜く、鮮度の高い活気のある市場
- ・氷見駅を番屋街まで伸ばして漁港を核にしたまちづくり

第2分科会 氷見への新しいひとの流れをつくる グループ③

まとめ

取組

- ・Osakana Academy(グローバル人材～プロも育てる～お魚アカデミー)
- ・お魚ストーリー
- ・キャリアアップ(出世魚のように)
- ・ボツシーニ部
- ・起業支援
- ・魚がさばける～寿司がにぎれる～自前で出汁がとれる
- ・食育部
- ・北陸の辻調理師専門学校のように
- ・本物の給食がでる。

理想

- ・回遊する人材を受けとめるまち
- ・本物が生き残れるまち
- ・住む人は氷見が選ぶ

理想

キャリアアップできるまち。
回遊する人材(魚)をしっかり受け止めるまち。
学校(小学校14、中学校6、高校1)+お魚学校→から会社をつくる
魚がさばける。寿司が握れる。小魚部門。
住む人を氷見が選ぶ
おさかなアカデミー(グローバルに、プロも育てる)
本物が生き残れる。←背景にあるストーリーが見える。

個別意見

取組

- ・お魚アカデミー(グローバルに、プロも育てる。)
- ・お茶を小さな契機とした
- ・ネットワークが大事
- ・マッチングが大事
- ・稼げる会社にするのが大事である。
- ・学校(小学校14、中学校6、高校1)+お魚学校→から会社をつくる
- ・移住希望者にとって観光パンフレットではなく、本当に必要なのは生活情報である。
- ・魚がさばける。寿司が握れる。小魚部門。
- ・魚が嫌いであったが、食(職)として大事であると感じるようになり心が変わった。
- ・若者どうしの交流人口をどう増やすかが大事。
- ・収入面への支援が必要。
- ・食、景観、富裕層、氷見ファンを捉える。
- ・人脈が大事。
- ・第2の人生としての移住、善し悪しのわかった方々の移住対策
- ・地域に住みながら地域に貢献したいと思うようになった。
- ・地域のインターン企画がよいのでは(学生は就活の場として捉えている)
- ・定住人口、交流人口の増。
- ・東京で氷見イベントの企画を実施している。
- ・氷見の魅力を求めて客はくる。

現状

- ・「仕事百貨」で人員を募集中。ライフスタイルも含めた人材確保が大事。
- ・いつもブリである。→どう動かすか→再度美味しい時期にきてもらうことが大事。
- ・空き家はあるのか?たくさんあるが、表に出てきていない。
- ・今は地方が選ぶ時代。
- ・今までに体験受入を行って思うことは、学生たちが帰って来た時のことを考えるようになった。
- ・市の支援制度のタイミングがあわず支援を受けられなかったケースがあったので、検討してほしい。
- ・市役所も59歳まで採用年齢をひきあげた。
- ・自分でつくった野菜でないとダメであるなどこだわる方もいる。
- ・大手の会社へ行ってしまう傾向にある。
- ・転職の時代を迎えている。若い人は抵抗がなくなってきている。
- ・当たり前なのがびっくりされる。
- ・同じものでもこだわりが大事。
- ・農家の人手不足。
- ・農業担当の地域おこし協力隊員は農業だけではなく、FBに魚など色々掲載してくれている。
- ・犯罪が少ない。
- ・氷見の魚、野菜は新鮮である。息子は氷見が好きでUターンした。
- ・氷見は毒されていない。
- ・氷見人は傍観者が多いのではと感ずる。
- ・無農薬など切り口の気づきが大事である。
- ・料理の作り手のことを考えて食べている。

第3分科会 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる グループ④

個別意見

まとめ

取組

- ・出逢いを作る。
- ・20代までは、毎年同窓会開催（市から助成）
- ・30代からは、おせっかいさん(昔の仲人)の出番
- ・学童保育をより充実させる。
- ・質の向上→従事者のプロ化
- ・対象児童の拡大
- ・子育ての環境をさらに充実させる。
- ・氷見市民病院に産科を設ける。
- ・不妊治療の助成の拡大・メンタル等のサポート

現状

- ・市外での出産が多く、市内の産科が1つであることの心理的な不安
- ・就学後は学校終了から家族が帰ってくるまでの子どもの居場所に係る不安が多い。
- ・就学前は保育園等で対応しているため、不満は少ない。
- ・晩婚化により妊娠の確率が低下
- ・未婚の男女が多く、晩婚化が加速

理想

- ・安全安心＋育てやすい環境→子どもを増やす。
- ・楽しみながらの結婚、出産、子育てを行う。
- ・女性が氷見に戻る。→そして、輝いて仕事をする。
→結婚年齢が下がる。
- ・氷見で安心して産める。

取組

- ・20代の同窓会の開催を促進
- ・学童保育は質を高めるために従事者のプロ化
- ・県の少子化対策県民会議の部会の議論
- ・市民病院に産科を開設
- ・出逢いを取り持つ人の雇用
- ・情報を持っている農協による縁結び
- ・親のサポートによる育児
- ・多子世帯への助成
- ・通勤できる範囲での働く場所の創設
- ・不妊治療への助成・精神的なサポート

現状

- ・3人目はお金次第である。
- ・おばあちゃんの子育てがわからないため、仕事や趣味に専念して孫を育てることに関与しない。
- ・学童保育は年齢や家での祖父母等により制限があり入れない子がいる。
- ・学童保育以外は資格のある保育士や教師などによるが、学童保育は資格のある人はない。
- ・高岡での出産が多い。(不妊治療から引き続き高岡の病院で)
- ・若い人たちは同居せず、家を建てるのでお金がない。
- ・若い人の価値観の違い→本人の自由
- ・出逢いの機会がない。
- ・女性→しがらみはいやだ。
- ・他県へ転出した方からの手紙→氷見市は子育てしやすい。
- ・晩婚化による初産の高齢化→妊娠の確率が低くなる。
- ・母親は出産後早く会社に復帰するので、地域や母親同士の中に入らない。

理想

- ・学童保育の対象の制限がなくなり、保育の質が向上し、場所ごとの格差解消
- ・輝いている若い女性が氷見市に多く住んでいる中で、出逢いの機会を設け、初婚年齢を下げる。
- ・地元で安心して産める。

第3分科会 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる グループ⑤

まとめ

取組

- ・お祝い金として第2子は50万円、第3子は100万円贈呈する
- ・結婚時に家を建てやすい制度を
- ・子どもを遊ばせる場所があればよい
- ・子どもを預けることができる環境を充実させる
- ・住みやすい住宅を
- ・上質な文化に触れるような体験があればよい
- ・世話役、出会いの場を整える
- ・氷見の良さを伝える子どもを育てる
- ・夫は早く帰宅する。
- ・保育料を下げる
- ・両親共残業がない環境にする

理想

- ・まちなかでそこにしか買えないものがあればよい
- ・兄弟(姉妹)は多い方がよい
- ・夫(嫁)は他県他市から連れてくる

理想

→そのためには保育料を下げる。夫は早く帰宅する。
3兄弟は最近多い
まちなかでそこにしか買えないもの楽しいものがあればよい
兄弟は多い方がよいという考え方を持つ
結婚時に家を建てる時に助成金があればよい
産科医院・病院・買い物するところは近いところに越したところはない
若いひとはしがらみやしきたりに関わりたくない
若い世代や住みやすい住宅があればよい
上質な文化(普通の寿司屋が普通に美味しい)に触れるような体験があればよい
夫(嫁)は他県から連れてくる。

個別意見

取組

- ・3世代居住はまだよい。核家族は育児が辛い
- ・市民病院があればよい
- ・保育料が高いのは辛い
- ・保護者の費用負担が下がったため、県内外からこども園目的で転入増
- ・インターネットでの出会いも一般的になった。
- ・シャイな方に対しどのようにアプローチしていくかが必要
- ・街コンであるが、氷見市民はシャイであるので、効果は薄いのでは？
- ・熊本県南関町は保育園を集約し、認定こども園を設立。運営費は保護者1/2、町1/2
- ・今年度から保育料の制度が変わった。(分かりにくい)
- ・産婦人科少ない
- ・子どもを預けることができる環境が必要
- ・市主催の街コンは効果あり(事務局同士で結婚するケースあり)
- ・出会いがない。そもそも結婚したくない風潮
- ・出産よりも結婚が最初の壁
- ・助けてくれるひとが必要
- ・職場内結婚も人による
- ・世話役が必要。(南砺市、射水市、滑川市等他市は世話役の人が多。氷見にもいっぱいいるのでは？)
- ・第2子目以降は保育料の費用面でサポートすれば可能性はある。
- ・第3子でも受け入れ可能
- ・氷見に転入してきたら他の自治体に負けない特典が必要
- ・氷見市が他市で街コンする
- ・氷見市への転入には何がきっかけなのか？何を求めているのかを調査したほうがよい。
- ・不妊治療の助成やそもそも相談できるところが、近場にはない。
- ・両親の校区外への進学は祖父母の住所でOKになるケースがある。

現状

- ・「氷見は好き」という子は多い
- ・→以前いたところの教育方針が合わなくて、進学を機に氷見に戻ってきた
- ・→出会いの場よりライトな飲み会でも構わない
- ・→中学生でもやはり「食」であった。13の日は毎回楽しみにしている
- ・3世代家族はよい。核家族に育児の支援が必要
- ・お世話役がいれば結婚の可能性はある
- ・フレックスタイム制が導入できない
- ・学童の充実が必要。ただし入園に制約があるところがある
- ・県外の方に氷見に求めるものの把握
- ・妻が子育てを優先するのであれば、専業主婦になるしかない
- ・子どもを遊ばせるところが少ない
- ・子育てにはパパ・ママの知り合いも必要
- ・子育て世代はパートが多い(小学校あがる前は特に)
- ・若いひとは何を魅力に感じるか？
- ・上質な文化やまちがあれば、転出しにくい
- ・食を含めて楽しいことがあればよい
- ・昔は獅子舞で出会いもあったが、今は獅子舞自体がない
- ・転出の理由→職場が近い、利便性、習い事も豊富
- ・氷見の男子はシャイである
- ・夫(嫁)県外から連れて帰ってくるような教育が必要
- ・忙しすぎ(特に氷見市役所)

第4分科会 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する グループ⑥

まとめ

取組

- ・地域づくり協議会の地域自慢大会開催
- ・シビックプライドの醸成
- ・ボランティアや役割、責任ある立場
- ・安心生活創造事業
- ・ケアネット
- ・自治会加入率100%運動
- ・生きがいつくり
- ・地域のボランティア育成
- ・いつまでも働くこと

現状

- ・地域づくり協議会が5地区でとどまっている
- ・医療費、介護費の増
- ・自治会に加入していないので広報が届かない
- ・ボランティアの後継者不足
- ・自治会加入状況の実態把握ができていない
- ・地域のことを知らない、無関心層の増加
- ・地域行事にもお呼びがかからない

理想

- ・地域づくり協議会を全地区で設立
- ・地域に合った生活支援サービスが展開されている
- ・住み慣れた地域、住みたい土地で最後まで生活できる
- ・皆が元気で生活している、健康寿命を延ばす
- ・地域住民がつながっている
- ・地域住民が地域を愛している

個別意見

取組

- ・シビックプライドの醸成
- ・プレハブを拠点にピザの提供など計画されている人がいる。
- ・安心生活創造事業、ケアネット、地域ボランティアの育成、支援
- ・安心生活創造事業・・・地域の見える化している。地図を配布している。
- ・自治体加入率100%運動
- ・若い人が来たらなじめない。隣との連携。近所づきあいを仕掛ける。
- ・地域自慢大会の開催
- ・働くこと、生きがいつくり、ボランティア活動、責任ある活動、地位

現状

- ・(後継者不足)
- ・「元気な地域」とは？各地域の特色はどうする？無理やり元気にならなければいけないのか
- ・<地域>どの範囲のことを指しているのか。
- ・NPOパスについても現状の運営体制は無理となる。複数の谷の連携
- ・つきあいを求めている移住者もいる
- ・ボランティア活動費、全部ボランティアでは無理 有償ボランティアは、安いという感覚があるが時間が自由で責任感が薄いなど。責任を持たすために最低賃金を補償するということもあるが、労働基準法に関連してくる。
- ・医療費、介護費の増
- ・加入できない、広報が届かない、運動会に参加できない、実態把握できていない
- ・空き家定住 → 地域との交流が大事。オープンさも(移住者)大事だが、地域を守る人も大事。移住者の経済面(仕事)もサポートしなければいけない。
- ・高齢者に市街地に住んでもらう(コンパクトシティ) コストの削減↓高齢者にとって本当に幸せなのか？知り合いがない
- ・高齢者の移住には問題もある(医療費、介護費)
- ・施策を考えるにあたり、支援側(行政、社協)の関わりかたは重要。黒子に徹する
- ・自治会未加入者の増加・・・町内会費未納・・・問題があっても町内として対応しないのか。市広報も届かない。選挙広報は新聞折り込みへとした。→取っていない世帯への対応は？
- ・若い人は住むと地域は活性化する。
- ・小さな拠点」の財源は？氷見市の地区社協活動は日本のトップレベル。この活動をまず守ること。厚労省の方針では、2年後、介護を地域ボランティアでやってね！氷見独自の福祉を考えなければ継続していけない。介護保険制度の改革(1年半後)受け皿の準備↓地区社協・自治会ではマンパワーが無く無理。お金を支給すれば良いという問題ではない。
- ・地域に住む市職員は重要 → 今の職員が退職すると、いない地域は大変
- ・地域区割りの見直しが必要 → 消防団、健康ボランティア、校区など、活動団体によっては活動範囲がバラバラで分かりにくい。
- ・地域内でも班合併が進んでいる。草刈り、どぶさらい等、無理となる。地域でもカバーできない。
- ・地区社会福祉協議会の取り組みは「安心生活創造事業」、ケアネット等がある。地域で見守る側の人口流出を考えると今までと同じことができるのか？各地区のリーダーの後継者問題もある。→今までどおりのサービス運営していくこと(地域住民だけで)は無理である
- ・仏生寺地域づくり協議会の成功 → 地区社会福祉協議会が弱体化したことにより成功した(他の団体との合同)。別地区がうまくいくとは限らない。

理想

- ・皆が健康で生活している、健康寿命を延ばす
- ・時代にあった地域とは → 氷見らしさ・・・近所づきあいのある面倒くさいつきあいのある生活
- ・生活支援サービスが展開されている(地域独自の地域にあったもの)→住み慣れた地域、住みたい土地で最後まで生活できる
- ・地域づくり協議会を全地区で設立
- ・地域住民が地域を愛している
- ・地域住民が連携している、情報が伝わる